



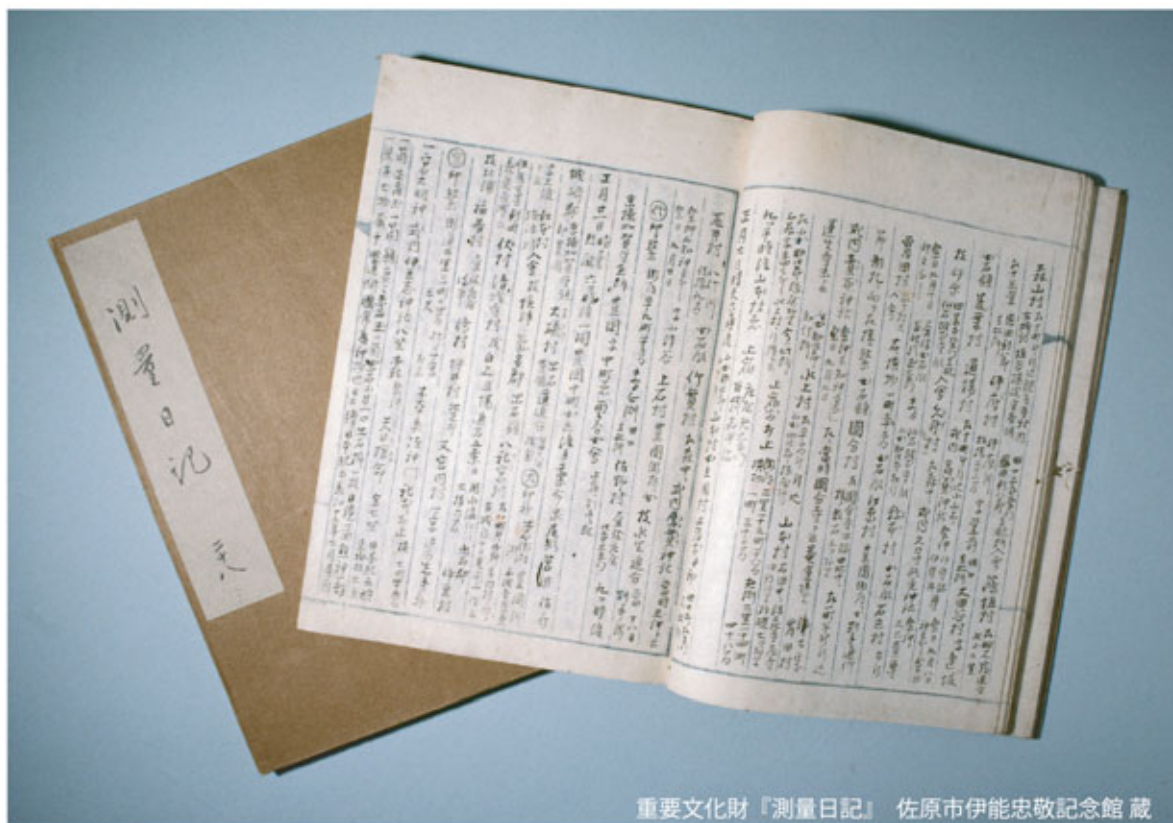
但馬国府・国分寺館ニュース

2005.11 第2号

編集・発行

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokuji and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町袴布 808
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjan/
e-mail kokubunjan@city.toyooka.lg.jp



重要文化財『測量日記』 佐原市伊能忠敬記念館 蔵

いのうただたか たじま 伊能忠敬の見た但馬 —第1回ミニ企画展より—

伊能忠敬は、現在の千葉県佐原市出身で、50歳になってから測量の勉強をし、全国を足掛け17年にわたって測量し、精巧な日本地図を作成したことは有名です。

彼は、今から約200年前の文化3(1806)年と、同11(1814)年に但馬を訪れ、測量をしています。その時の様子は、全国を測量した間、一日も欠かさず書き続けた『測量日記』によって詳細に知ることができます。

伊能忠敬が作成した地図は、一般に伊能図と呼ばれています。伊能図は、縮尺や収録地域によって多くの種類がありますが、大きくは大図・中図・小図の3種類に分けることができます。このうち、従来あまりよくわかっていなかった大図(縮尺約1/36000)が、平成13(2001)年にアメリカ議会図書館で発見され、大きな話題となりました。

伊能図は、当時最先端の技術を用い、科学的な実測によって全国を統一的な縮尺と精度で作成されたもので、当時の日本の様子を伝える大変貴重なものとなっています。

但馬国府・国分寺館では、国土地理院が複製した但馬全域の伊能大図を所蔵していることから、「伊能忠敬の見た但馬」と題して第1回のミニ企画展を開催しました。会期中は、但馬のみならず、丹後や丹波、播磨方面からも多くの来館者がお見えになり、好評を博しました。

伊能忠敬といえば、学校の教科書にも必ず出てくる日本の偉人の一人です。その伊能忠敬の足跡と人となりを知っていただきたく、本号で紹介させていただきます。

■第1回ミニ企画展「伊能忠敬の見た但馬」

平成17年6月3日(金)～7月31日(日)

■主な展示品

- ・伊能大図(複製。但馬周辺地域分4枚)
- ・伊能中図(複製。日本全図)
- ・陸軍陸地測量部作成 5万分の1地形図(明治時代)

なお、当館総合学習室には、神戸市立博物館所蔵の伊能小図(兵庫県以西)をパネルにて常設展示しています。

伊能大図を読む

伊能大図は、縮尺約 36000 分の 1 で、日本全国を 214 枚に分けて描いた大作です。50 歳になって測量の勉強を始めた伊能忠敬は、延べ 3736 日、4 万 3708km を歩いて、この地図を完成させました。

測量方法はごく簡単で、2 点間の距離と方位を測るというものです。それを何万回と繰り返し、点と点を線で結んでいくのです。ただ、測量には誤差はつきものです。伊能忠敬は、天気の良い夜には決まって空を見上げ、陸上の測量結果を天体の観測により補正していました。ちなみに、伊能忠敬が計算した、赤道上で経度 1 度の距離は、22 里 2 分 (約 110.75km)。現代の測定値は約 111km ですから、ほとんど誤差はないと言ってもよいでしょう。近代的な測量法や器械のない時代に、これほど正確な地図が作られたことには、ただただ驚くばかりです。

伊能忠敬の但馬測量は、文化 3 (1806) 年、文化 11 (1814) 年の 2 度、行われました。文化 3 年には、鳥取から海岸線沿いに東へ、文化 11 年には、姫路から内陸部を北に向けて測量しました。切り立った断崖が続く但馬の海岸の測量は、とても苦勞したようです。

伊能忠敬の『測量日記』

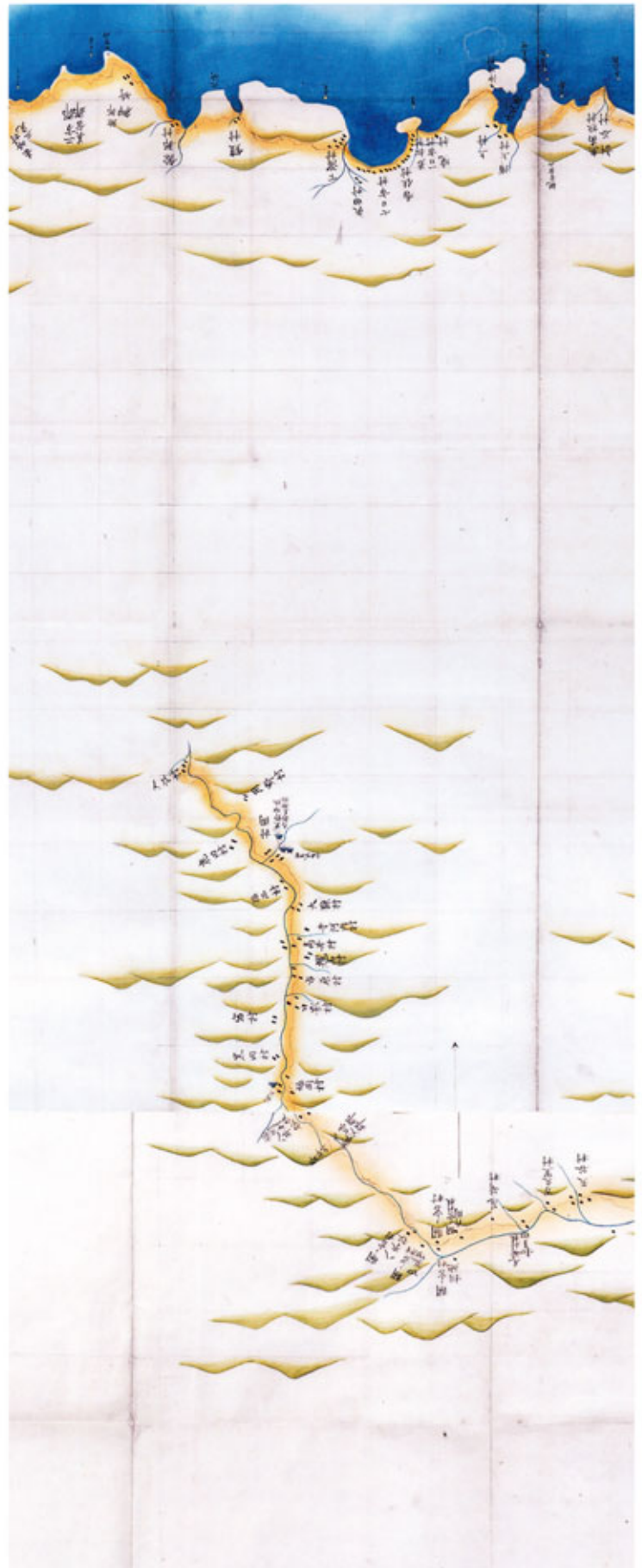
伊能忠敬は、日本全国を測量して旅する間、毎日欠かさず日記を書き続けました。それが『測量日記』です。『測量日記』には、日付、天候、宿を出発した時間、宿の場所、集落や神社の名前などが、規則正しく書かれています。

文化 11 (1814) 年、但馬を測量に訪れた際の『測量日記』には、但馬国分寺跡に礎石が 3 つ、国分尼寺跡に礎石が 7 つあることが記されています。現在、国分尼寺跡に残る礎石はわずかに 2 つ。200 年の間に、5 つの礎石がなくなったことがわかります。他にも、豊岡市駄坂・香住にある三開山は、当時から俗に但馬富士と呼ばれていたことがわかるなど、たいへん興味深い内容となっています。

個人はもとより、学校や地区の公民館などで、測量日記と伊能図を片手に、伊能忠敬の歩いた道をたどってみるのも楽しいのではないのでしょうか。

Topics 但馬国分寺跡の礎石はどこへ？

文化 11 (1814) 年の記録から 200 年経った今、但馬国分寺跡・但馬国分尼寺跡に残る礎石はそれぞれ、2 点ずつ。他はどこへ行ったのでしょうか。多くは国分寺跡周辺の学校や民家をはじめ、出石の宗鏡寺、福成寺などに運ばれ、庭石や台石として使われています。また、遠くは京都市左京区にある橋本関雪記念館にも、但馬国分寺跡出土と伝える礎石が残されています。





但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー



② 風鐸 但馬国分寺跡出土／銅製／8世紀 高 22cm

風鐸とは、寺院の軒先や塔の相輪（塔の最上部に取り付けられた金属製の飾り）に吊り下げられた風鈴のようなもので、但馬国分寺跡からは、3個体の風鐸が見つかっています。

写真は、模様のない小型のタイプ。完全な形で出土した例は、全国でもあまり類例がありません。他に、突起や突帯が付く大型のタイプがあります。小型タイプは塔の相輪に、大型タイプは、軒先に吊り下げられていたのでしょう。

風鐸は、風が吹くたびカラカラと音を奏でます。その音には、魔除けなどの意味があったのかもしれませんが。多くの雑音が飛び交う現代、風鐸の音に耳を澄ますような心の余裕が欲しいものです。

『測量日記』に見る測量隊の一日

伊能忠敬は『測量日記』に、どのようなことを書いているのでしょうか。彼らが但馬国分寺跡を訪れた、文化11(1814)年1月19日の日記を見てみましょう。

朝より雪。午前3時頃より晴天になる。午前6時過ぎ、気多郡の田口支配所である知見村を出発し、同村の宿より測量をはじめ。

森山村：左に1kmほど入った観音寺村内に古城跡がある。垣谷隠岐守の居城という。田口五郎左衛門、恩田新八郎の支配所篠垣村：左は妙見山道に分かれる。これより8km、左に十王堂がある。恩田新八郎の支配所伊府村：伊府川にかかる板橋の長さは38m。堂ノ前という字がある。田口支配所久田谷村：辺坂という字がある。出石領夏栗村。道場村：左に1kmほど入った小山の上に式内社高負神社がある。祭神はイザナギとイザナミで、祭日は9月8日、神主はなく氏が管理している。伊原という小集落がある。田口五郎左衛門支配仙石越前守領入会久斗村：左側の森の中に式内社久刀守兵主神社がある。祭神はオクニヌシノミコトで祭日は9月10日、神主はいない。

登休みは、出石領百姓代直右衛門の家。登食後、仙石越前守領小出助四郎知行柿布村、出石領石立村、岡崎菅田村、三ヶ村共に入会。右へ横物1150mほど行くと、出石領江原村がある。豊岡街道に出て、別隊が測量した制札に向かって左の柱に繋ぐ。

出石領国分村：左側の国分寺田跡田地中に柱の敷石が3つあり、左に110mほど入ったところに式内社売布神社がある。祭神不明で神主はない。祭日は9月9日。左側に当時国分寺という庵室がある。浄土宗宵田村にある蓮生寺の末寺という。小出助四郎知行所水上村：左へ36mほど入ったところに小出助四郎の陣屋がある。山本村：右側の田の中に法花寺尼寺田跡がある。柱礎七つあり。右側に、小出助四郎陣屋がある。今はここにはおらず、番人もいない。水上村へ引き移ったという。宿の前で本日の測量を終える。本日の測量距離は、街道9.29km、惣測9.47km、横物55.7m。

午後0時半過ぎ、山本村に到着。庄屋である惣右衛門、百姓代嘉平治の家を宿とする。

(読みやすいように、現代語に改変するなどしています。)

お知らせ

第4回企画展「飛鳥から奈良へ－新豊岡市を考古学する③－」を開催します。

新「豊岡市」内の出土品を集めたシリーズ展。3回目の今回は、飛鳥時代を中心に特集します。奈良・飛鳥の謎の石造物「猿石」(複製)や、日本最古の寺院、飛鳥寺の瓦など、貴重な資料を展示し、都の文化と但馬の文化、双方の薫りを感じていただけるようにしています。

■会期 平成17年11月25日(金)～平成18年1月24日(火)

■休館日 毎週水曜日と、12月28日～翌年1月4日

記念講演会



第1部「奈良の古寺を歩く」

第2部「キトラ古墳の最新成果」

講師：花谷浩先生(奈良文化財研究所)

■日時：平成18年1月21日(土) 午後1時30分～3時

■ところ：日高農村環境改善センター 多目的ホール
(日高総合支所 東隣)

■入場無料、申し込みも不要です。

但馬国府・国分寺館

ご利用案内



但馬国府国分寺館
Museum of Yamato Kokufu and Kokubunji

■開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日：毎週水曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)

年末年始(12月28日～翌年1月4日)

■入館料：大人500(400)円、高校生200(150)円、
小中学生150(100)円/()は20名以上

*県内の小中学生は無料 *65歳以上の方は半額